渡辺三男博士
古稀記念

日中語文交渉史論叢

桜楓社

渡辺三男博士古稀記念　日中語文交渉史論叢　検印省略

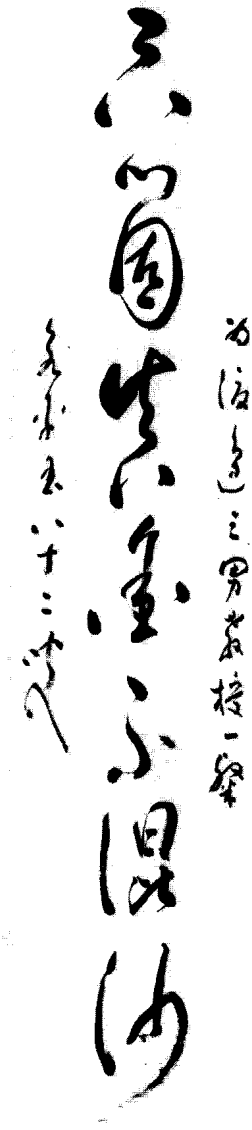
昭和五十四年四月十日　印刷
昭和五十四年四月十五日　発行

編者　渡辺三男博士古稀記念論文集刊行会
発行者　及川篤二
印刷所　三祐印刷

101 東京都千代田区猿楽町二―八―一三
㈱桜楓社
(〇三)二九五―八七七一(代)
振替　東京　六―一八〇二〇

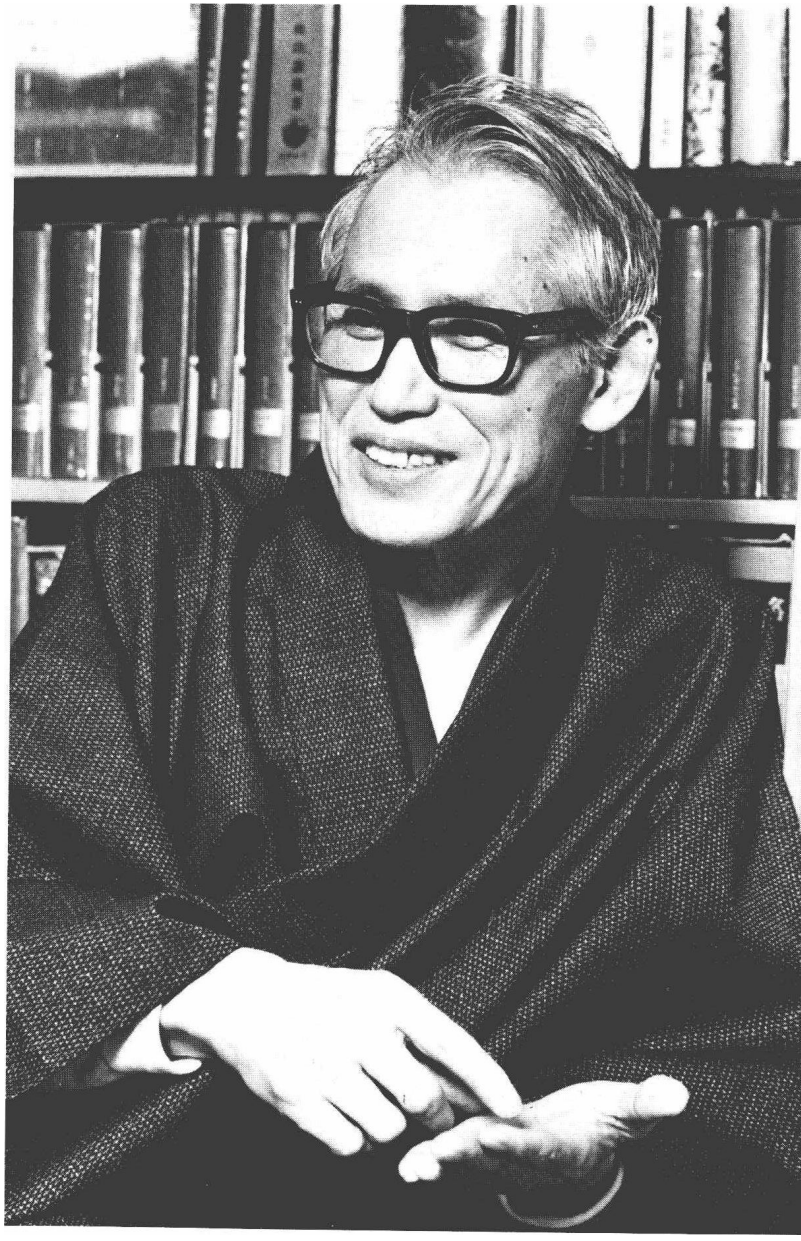
1979 Ofusha © Printed in Japan 3093-790428-0723

御物 嵯峨天皇宸影 91頁注(2)参照



永平寺貫首　秦慧玉禅師

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com



渡辺三男博士近影

全国大学相撲選手権大会
観戦中の駒沢大学相撲部名誉部長秦慧玉老師と渡辺部長（昭和五十年十一月、堺市大浜体育館、尾形〈現天ノ山〉優勝の瞬間）

序にかえて

岡本素光

数多い友人の中にあって、渡辺先生は私にとって極めて大切な友人である。それは先生が私の持たないあまりにも多くの長所を持っておられるからである。戦後まもなくのことであるが、先生を田舎の小庵にご案内したことがある。その時先生はいかにも大切そうにまた楽しそうに、路傍の小さい苗木のようなものや草花の類を、まめに採集し、自宅の庭に植えるのだといって持ち帰られた。名も知らぬ草木であったが、今でも先生の庭にあるかもしれないが、何とも美しい情景であり感情である。先生はそのように心情が細かく温いのである。

それから、これは十年ほど前のことだが、北海道の分校で講演をお願いしたことがある。ところが、僅かなお礼であったが、それにご自分のポケットマネーを相当加えて、石狩川の上流に案内人を連れて、石を買いに行かれた。これには驚いた。石に就いてすぐれた鑑賞眼、というよりは哲学を持ち、石の話になると二時間でも三時間でも、否半日でも一日でもレクチュアされるのだということを、私はこの時はじめて知った。人と石と一如という信念を、いっそう確実にするための養心の工夫と聞いた。感受性に非常にデリケイトなところがあるかと思うと、このように深く壮大なところがある。心の幅が非常にひろいのである。羨ましいと思う。

そう思って見ていると、先生は何事によらず必ず一家見を持っておられるのである。談笑の間にもそれが見られる。別に異をたてるというのではなく、極く自然に一つの見識が出て来るのである。これは平素の思索が行届いているからのことであるから、誰にでもできることではない。

併し先生は本質的には、非常に苦労人である。感情が繊細であるというのも壮大であるというのも、人生原野に於て、学問の分野に於て、真剣な訓練と努力をなされたからのことである。深く敬意を捧げたいと思う。

この度知友、門下の諸賢の間から、先生の古稀を記念して論文集を出版されるという。これというのも、平素先生が同僚後輩の諸賢と如何に密接に交渉されていたかを物語るものであって、遽かに企画してできることではない。ご同慶の至りである。先生もどんなにか喜ばれることか。

古稀とはいっても、今の時代ではまだ若いのであるから、健康に十分留意されて、喜寿までも米寿までも百歳までも、是非生きて凡ゆる面で万丈の気を吐いて戴きたいと、念願してやまない。

（故駒沢大学前総長）

渡辺三男博士古稀記念

日中語文交渉史論叢

目次

序にかえて　岡本素光……1
嵯峨天皇の唐風謳歌　渡辺三男……11
天皇の宗教性・覚書　山折哲雄……97
音韻資料としての全浙兵制考日本風土記　福島邦道……125
『日本一鑑』名彙の「草木」について　木村晟……157
日本一鑑寄語語音考　李俊生……187
『琉球館訳語』について　比嘉徳次……209
吾妻鏡補所載海外奇談国語解の語彙について　萩原義雄……227
「游歴日本図経」の「日本文表」　大友信一……253
菅原道真から紫式部へ　横井孝……285
——その精神をつなぐもの——
紀貫之論　森藤憲定……303
——『古今集』前後の詩歌と貫之の類歌——

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

『古今集』恋歌私見
——不在の意識と想像力の行方——　高橋文二……329
伊勢物語と遊仙窟　鈴木儀一……343
桐壺巻における長恨歌の影響
——類似性と相違性について——　近藤恵一……359
冥報記と今昔物語集「震旦」部について　佐原作美……373
松浦宮物語の手法
——無名草子の評語および先行作品との関係について——　廣島まさる……399
蒙求和歌の成立過程と執筆動機　池田利夫……417
『平家物語』における漢詩文関連の問題　水原一……435
足利本仮名書き法華経の副詞　植松正秀……461
『承久兵乱記』覚え書き
——本文の問題をめぐって——　村上光徳……479

西行の大峰修行説話について
——『古今著聞集』を中心に——　坂口博規……501
「班女」をめぐって
——美相論から演劇へ——　大友泰司……531
洞門抄物の漢語　片山晴賢……547
芭蕉の鹿島詣について
——禅と中国詩人と王朝文学——　佐藤圓……567
『狗張子』典拠続考　冨士昭雄……591
曲亭馬琴の寛政八九年における中国小説志向　清田啓子……607
島崎藤村の「うたゝね」についての一考察　片岡懋……625
唐木順三論
——『現代日本文学序説』を中心として——　田沢英蔵……647
『正法眼蔵』の断層
——懐弉本「仏性」巻の場合——　水野弥穂子……665

道宣律師と大乗戒　佐藤達玄……685
北宋末の法党と仏教・道教　阿部肇一……707
『聖一国師年譜』と虎関師錬　葉貫磨哉……727
『猿法語』の世界　鎌田茂雄……745
再び太平御覧所引魏志の史料系統について　三木太郎……757
暦林問答集の鈔本と引用文献　中村璋八……775
中国の怨霊　篠原壽雄……797
古代中国の夢
——詩経から楚辞まで——　石上幸作……827
「門外文談」の注釈について　石山曙生……845
ユタ信仰の宗教－文化的背景　佐々木宏幹……861
渡辺三男年譜略
——子どもらのために——……885
編集後記……山田巌……897

渡辺三男博士
古稀記念

日中語文交渉史論叢

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com